

### 2020年7月5日

#### 聖霊降臨節第6主日 礼拝順序

司式) 渡辺 教  
奏楽) 香山祐子

前 奏

招 詞 コヘレト11:6

讃 美 歌 10 (1, 2節)

主の祈り

詩編交読 詩篇 126:1~6

讃 美 歌 484 (1節)

こどもへのお話し

賛 美 歌 50 (3節)

聖 書 ヨハネによる福音書 4:27 ~ 42  
(新共同訳 170 頁 / 口語訳 141 頁)

祈 禱

讃 美 歌 412 (1,2節)

使徒信条

説 教 「種まかぬ者が刈り入れる」  
池迫直人 牧師

祈 禱

讃 美 歌 579 (1,3節)

献 金

報 告

讃 美 歌 25

祝 禱

後 奏

当番) 津村博文・山内みどり・福澤益代

#### =今週の祈りの課題=

- 刈り入れの務めを覚えて祈りましょう。
- 種まきの労苦、刈り入れの喜びを確かにする聖書の言葉に聞き、祈りましょう。
- 岩城教会 3, 松山教会 99, 松山番町教会 76, 松山山越教会 48, 松山古町教会 11,

三津教会 40, 松山栄光教会 6 を覚えて祈りましょう。(数字は平均礼拝出席者数)

#### =今週の聖書日課=

7/6 (月)	マルコ	14:66 ~ 72
7/7 (火)	〃	15:1 ~ 15
7/8 (水)	〃	15:16 ~ 32
7/9 (木)	〃	15:33 ~ 47
7/10 (金)	〃	16:1 ~ 8
7/11 (土)	〃	16:9 ~ 20
7/12 (日)	ヨハネ	4:43 ~ 54

#### =次週の礼拝=

聖霊降臨節第7主日 2020年7月12日

部落解放祈りの日

説 教 「歩ませてください」

聖 書 ヨハネ福音書4:43~54  
(新171頁/口141頁)

賛美歌 9(1,2)57(1,2),484(1),459(1,2),  
505(1,3,4),25

招 詞 申命記7:19

詩 篇 詩編119:1~8

司式) 津村博文 奏楽) 出口美樹子  
当番) 津田健一・渡辺教・禿泰子  
看板)

#### =牧師室より=

\*7/7 (火) 午前 農村伝道神学校

\*7/9 (木) 午前 〃

※感染症対策にともない学期のはじめを遅らせるなどにより、前学期は8月第1週まで通常の授業が行われます。

#### =先週の礼拝等報告=

	おとな	こども	合計
6/21 主日礼拝 (B)	42	42	42

#### =報告=

\*6/14 (日) 「隠退教師を支える運動」献金 (4~7月分) を献げてくださった方で、無記名の方がいました。担当(禿泰子)まで申し出ください。

\*7/12(日) は、部落解放祈りの日です。人が、その出自によって理不尽な対応を強いられることがなくなるよう、祈りに覚えて下

さい。また日本基督教団、仏教界他のはたらきを覚え支えて下さるようお願いいたします。

#### 【個人消息】

\*篠原利枝さん;先週日曜日に入院なさいました。感染対策のため面会はできませんが、平安と回復をお祈りください。

#### 【説教のポイント】

ヨハネ 4:27 ~ 30 の間に差し入れられている4:31 ~ 38 をとばして4:39 ~ 42 を読みますと、話はよどみなく進みます。サマリア出身のひとりの女が、イエスと出会い、救われたことにより、サマリアの他の人たちがイエスのもとにやって来て、救いを確信するのです。ひとりのサマリアの女とイエスの出会いが多く他のサマリアの人たちの救いへと広がっていきました。イエスの蒔かれた種が、多くのサマリアの人たちの救い(刈り入れ) となって弟子たちへの、務めに引き継がれていったのです。

その原点にある種蒔く人と刈り入れる人の話を、ヨハネは、種まきの話(サマリアの女とイエスの出会い) と刈り入れの話(他の多くのサマリア人たちがイエスを世の救い主として信じる) の間に差し込んでいます。

種を蒔く人の労苦は、別の刈り入れる人の喜びとなるのです。これは、今日の詩編 126 編とは決定的に違います。労働に勤しんで苦しんだ者が、それ相応の報酬にあずかるのが、世でも宗教でも通用する人間の基準です。この基準の枠内に事が運んでいるうち、ひとは労苦に耐え、

## 主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくは御名をあがめさせたまえ。  
御国を来たらせたまえ。み心の天になるごとく、地にもなさせたまえ。  
われらの日用の糧を、今日も与えたまえ。  
われらに罪を犯す者をわれらがゆるすごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。  
われらをこころみにあわせず、悪より救いいたしたまえ。  
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。  
アーメン

## 使徒信条

われは天地の造り主、全能の父なる神を信ず。  
われはその独り子、われらの主、イエス・キリストを信ず。  
主は聖霊によりてやどり、処女(おとめ)マリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府(よみ)にくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天にのぼり、全能の父なる神の右に坐したまえり、かしこより来たりて、生ける者と死ねる者とを裁きたまわん。  
われは聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦(ゆるし)、身体(からだ)のよみがえり、永遠(とこしえ)の生命(いのち)を信ず。  
アーメン

苦しみを耐え忍んで生きることができ  
るのです。しかし、ひとたびこの基準の枠  
から外れることに出くわすと、種まきの労  
苦を耐え忍んだうえに、さらに刈り入れに  
あずかることができないという不条理に  
より、二重の苦しみが増し加えられるので  
す。「働かざる者食うべからず」、「努力は  
必ず実る」、…とは言いますが。「鳶に油  
揚げをさらわれる」「憎まれっ子世にはば  
かる」というような、不条理にわたしたち  
は、苦しみを耐えることになるのです。

この問題には、ただひとつ道が残され  
ています。現実がいかに辛く苦しくとも、

労苦の報酬にあずかることができない  
としても、悲嘆や怒りにとらわれない態  
度を確認にもつことによります。日常的  
には家族、親子や親友の関係などにお  
いてみることができます。親は苦しみ、  
悲しむべき状況に生涯を終えようとも、  
こどものためならばたとえその報酬に  
あずかることができなくとも、喜びと希  
望を確信することができます。

イエスが歩まれる道は、労苦の多い  
種をまきつづけるご生涯でした。その種  
まきの結果、刈り入れのために弟子た  
ち、わたしたちは遣わされるのです。

# 聖霊降臨節第6主日 日本キリスト教団 生田教会

2020年7月5日

牧師 池迫直人

〒214-0037川崎市多摩区西生田4-9-3

☎ 044-955-2923

Fax 044-322-0175

郵便振替 00290-6-1176

HP: <http://www.ikuta-ch.com>

E-mail: [alhtheian@ybb.ne.jp](mailto:alhtheian@ybb.ne.jp)



## 《今年の標語》

「従って、あなたがたはもはや、外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家族であり、使徒や預言者という土台の上に建てられています。そのかなめ石はキリスト・イエス御自身であり、キリストにおいて、この建物全体は組み合わせられて成長し、主における聖なる神殿となります。」(エフェソの信徒への手紙 2:19 ~ 22)

## 《定期集会》

主日礼拝

毎週日曜日午前 10:30 ※感染症対策のためグループに分かれて行っています。